

深浦会東京だより

第12号

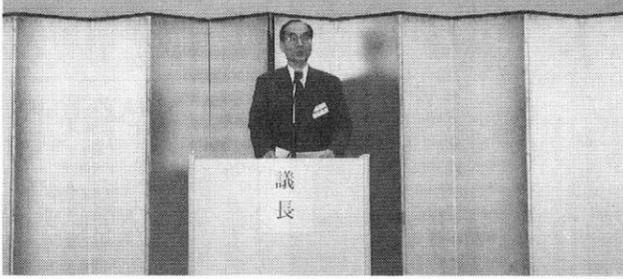
深浦会東京 事務局
〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-23-7
トボス・M. 駒沢102
TEL 03-3418-0914
FAX 03-3422-0483

第7回定期総会・交流会

『東京の深浦まつり』津軽弁で盛り上がる

「深浦会東京」の第7回定期総会・交流会は、本年5月16日午後1時から東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」で、関東在住の深浦町出身者で構成する会員三六〇名と、故郷深浦から町議員、農協、漁協、商工会、深浦婦人会などから六〇名

浦会東京総会交流会



黒滝会長のあいさつ

が出席、愛知県からの参加も含め総勢四二五人が集い盛大に開催されました。定期総会では、平成10年度活動、会計、監査報告と平成11年度の活動計画や予算案を審議し、議案通り承認されました。平成11年度活動は、①会報「深浦会東京だより」の発行(年二〜三回)、②深浦町「広報ふかうら」への寄稿、③深浦町「広報ふかうら」の購読案内の継続、④第五回「ちびっこ交流会」の開催(7月30日〜8月2日)、⑤深浦特産品の販売促進(電氣まつり、活彩あおもり大祭への取組み)、⑥「深浦のお相撲を励ます会」(仮称)への入会及び支援、⑦会員名簿の調査・整備、⑧第八回定期総会・交流会の準備など、それぞれが承認されました。黒滝進会長は「今日はたつぷりと故郷深浦の海の幸に触れ、ふるさとを懐かしみながら楽しんで下さい」と挨拶。ひきつづき、町の振興・発展に向けた取組みの紹介を交え平澤敬義町長が祝辞で「故郷深浦を懐かしみながら、大いに交流会を楽しんで下さい」と挨拶。「モヤイ像」の生みの

来年の総会・交流会の日程決まる!!
平成12年5月3日(水)に(詳細については後日)ご案内致します。

「熱気、そして感動」

元深浦中学校教諭 森山嘉蔵

ふるさとから参加して

しばらくぶりの東京だよりでもないが、山手線を半周ほどして(本当は乗り換え線の間違えたのだが)、少しばかり汗ばんで会場の入り口に立った。なんか、高令者の仲間入りしている私でさえ、全身がブルブルといった期待感に心の昂りを覚える。と、
「アーン先生、森山先生」
直ぐ判った。宮本実君に吉田瑛君である。「やあ、実さんに、瑛さん、しばらく〜」
「先生、変りないよ、若いよ」
と、冷やかすのは実君である。
「先生、瑛君はまだ現役で、バリバリ働いているよ、確かタクシーの運転手とか。」
「先生、本当に久しぶりでした。お元気で何よりです。」
と、瑛君、すっかり都会人である。
「中学卒業以来かな、あそくだ、四十二の厄払いのクラス会以来だよね。それにしても実君も瑛君も立派になって〜」
「いやあ、大したことも出来なかつたが、もう六十三才だから〜」
と、言う。永い東京生活の中で、言葉には言い尽せない苦労があったろうに、……、という心の内とは別に、言葉はつい昨日中学校を卒業したような話し具合になっている。
そして、深浦会の総会が始まった。東京の深浦会については、深中創立五十周年記念祝賀会の席上で、黒滝会長さんから聞いていたので、それなりに知ってはいたのだが、
この盛り上がる熱気にはすっかり圧倒されてしまった。交通・通信の発達で、現代にあっては、「青雲の志を抱いて郷関を出す……」なんていうせりふは時代錯誤だとしても、遥かな陸奥の津軽から、それなりの大望を胸に、「花の都で自分を磨き、名を譽げ、財を為すべし」決心をされてこれた方々である。未知の他人に囲まれて、艱難辛苦とはいかないまでも、難儀・苦労の多い歳月はと推量して余りある。しかも、故郷から出てきた親しい人々は、この広い大都会の何処に居るのやら……。
それが、町当局の計らいと、役員の方々の不断のご努力でこのように一堂に会して、掌をとり、肩を抱き合せて、津軽弁で話すことの出来るアズマシさ。よがったよ、よがったよ。
これが熱気の源泉だなぁと、古希を越えた目が独りでに潤みはじめたら、
「あら先生、先生も来たのがあー」
と、初老の女の人が四人、
「やあ、えき子さんにひろ子さん、後ろの二人はちょっと〜」
「やっぱり判らなかつた」
「判った、タヤの政子さんに、タイトの綾子さん」
四十六年ぶりの再会である。なつかしい。この熱気が、明日への新しい意欲と生きる力を湧かす原動力になる。会場のあちらこちらで感激の対面がなされている。
関係者の方々のご苦労を思いながらも、来年も再来年も、何時までも継続されることを願いながら、なつかしい教え子、知人の中に入って行くのだった。
(おわり)

第10回 電気のふるさとじまん市

電氣地域の豊かな自然やそこに住む人々のたゆまぬ努力と創意工夫によって生み出された特産品の数々、歴史に育まれた郷土芸能等を広く紹介し、電源地域への理解促進と特産品のマーケティング事業を支援するため、市町村PR、販売活動、特産品改良へのアドバイスを実施し、市場進出機会の増大に取り組むこと。

期 11月19日(金)〜11月21日(日)の3日間
11月19日(金) 10:00〜18:00
11月20日(土) 10:00〜18:00
11月21日(日) 10:00〜17:00

場 日本コンベンションセンター
(幕張メッセ) 国際展示場 (No.1,2,3)
千葉県千葉市美浜区中瀬2-1
JR幕張本郷駅下車 バス利用

主 財団法人 電源地域振興センター

入 無
場 料

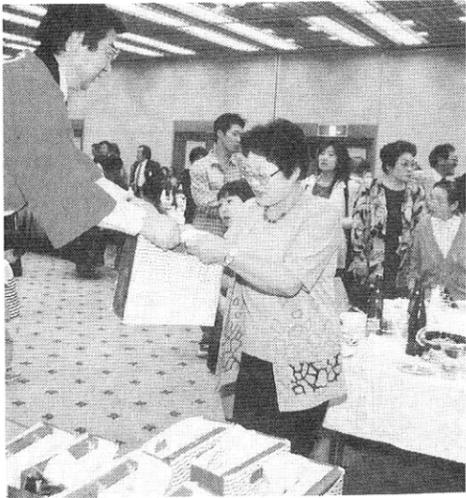
- 開催内容
- 1. 展示販売出展
 - 2. 味じまんの広場出展
 - 3. 出展市町村による特別イベント
 - 4. その他

皆さん、深浦町からも特産品の出展をいたしますので、ぜひご参加下さい。

◆新連載◆
深浦の歴史連載①
深浦町文化財審議委員 森山嘉蔵
今甦える中世戦国の深浦
1. ふかうら・折曾の関合戦
〜安藤一族・元享の津軽乱〜

① 安藤氏の内紛
鎌倉末期、津軽一円は藤崎城、十三湊に蟠居する安倍、安藤氏に支配されていた。津軽各村々の土豪も安藤氏に臣属していた。鎌倉幕府の最高権力者である北条得宗家は津軽領の地頭職である。得宗家は津軽地頭職の代官を安藤氏に委ねていた。また、鎌倉幕府は蝦夷(北奥・蝦夷ヶ島)の沙汰(政務の裁断及び処理、訴訟の評定処理)をも、蝦夷の頭領を自称する安藤氏に委ねていた。
すなわち、安藤氏は北条得宗家の津軽地頭職代官であり、鎌倉幕府の蝦夷の沙汰代官(蝦夷管領職)であった。津軽随一の豪族であり、地頭代としての実入りもさることながら、蝦夷管領職は、若狭、越前、加賀、越中、越後、佐渡、能登、庄内、出羽等々の北国船による北方交易、その湊々からあがる役銭(入港税)と、管領職安藤氏直屬船による交易の利益は実に莫大なものであった。安藤家に入った利益は一族の者たちに配分されていくのである。
安藤氏の中にも宗家だけの相続に異を唱える者が出てきた。宗家(頭領)の季長に対して支族(庶家)の季久が地頭職と管領職の譲渡を要求して断わられた。得宗家と幕府に季長の非を鳴らして訴訟に及んだ。両方から賄賂をとっていた幕府・執権職の不手際から、支族の季久に地頭職・管領職を移してしまつた。このことで現地津軽では両陣営が湧き立って合戦になった。
支族の季久は外ヶ浜の内末部(今の青森)に、宗家の季長は西浜の折曾の関(深浦の関)に一大根拠地(城郭)を築造し、軍勢を岩木川原に出して対峙した。津軽最大の豪族の内紛は、津軽一円の村々の土豪を二分して津軽大乱となつたのである。西浜(岩木川から西の方)の土豪(地頭)と領氏は、宗家の季長陣営に所属されていたと考えられる。合戦は一進一退で決定的な進展をみなく、徒に幕府の無策のみが世に上流に流れるゆゑだつた。遂に得宗家は嘉暦元年(一二三二)、津軽岩楯(平賀町)の地頭代曾我光頼、七戸の地頭代工藤右衛門尉祐貞に蝦夷(安藤季長)の討伐命令を出した。現地鎌倉軍勢の大動員である。こうして合戦は安藤一族の内紛から、津軽西浜の折曾乃関に堅固な城郭を構える西浜安藤軍と鎌倉幕府軍のいくさとなつた。ここから、鎌倉、京都の記録日記などにも、元享の津軽乱とか津軽大乱と記されているのである。
関の亀杉、関の古碑群の後背の山こそ、東西千五百メートル、南北八百メートルに及ぶ「折曾の関館」なのである。(以下次号)

総会・交流会より



福引き大会で大当たり!!



まあ!!お久しぶり



郷土料理に舌鼓



ウェスパ椿山「カメリア」にて全員集合



岡崎海岸で海水浴



弘前のねぶた太鼓を体験

雨で海水浴場にはいれないかと思つたら、はいれました。とってもさむかったです。みんな、くちびるが青くなっています。ウォーターズライダーもあって、とっても楽しかったです。

最後に綿密な企画を立て、四日間つききりの子供達をお世話下さいました。町役場のみなさん、関係者の方々、本当にありがとうございました。

第5回「ちびっこ交流会」に同行 都会っ子の大自然体験

久慈 諭吉

昨年引き続き「ちびっこ交流会」の引率に行つてまいりました。初回は違い、ある程度勝手がわかっているもので多少心ゆとりはありました。とはいっても、人様のお子さんを十五人もお預かりして、三泊四日の旅を終え、一人ずつ皆無事に親御様へお返しするまでとても気の抜けるものではありません。

今年参加者の構成は、男子六名、女子九名で、初参加者は八名でした。初日、七時羽田空港に集合。九時青森空港着。深浦町からのバスのお出迎えで、西目屋村の白神山ビジターセンターを見学。まだ「他人行儀」。

二日目の朝食、夜のバーベキューもみんな仲よくお手伝いしました。この日はカブト虫見学、トマトもぎ体験、深浦牛の飼育場見学、岡崎海岸で海水浴。三日目は地元「へなし」の子供会の児童十二名と交流。一緒に大綱見学、海藻の標本作り、ウェスパ椿山でレクリエーション。十二湖見学と盛り沢山の出来あがりであり、全員で「いただきます」。後片付けもみんなやりました。寝るのは男女別々の部屋に分かれての雑魚寝。

三日目は、海そうの標本をつくりました。すっごくつくるのをたのしみにして、やってきたら、すっごくたのしかったです。まだ、できあがりを見たいから早く見たいです。レクリエーションでフリスビーをやって、ストラックアウトでは、みごと3位になりました。とってもうれしかったです。安倍安東まつりでは、かき氷とフランクフルトを食べてとってもおいしかったです。花火も見たのしかったです。

山崎 千紘

青森にくるのは初めてで、青森にゆくのを楽しみにしてました。一日目は、白神山に行きました。白神山では森や川や動物のこを映そうで見学。青森の山や川のことがよくわかりました。夜、キャンプをするはずだったけど雨がひどくてキャンプは中止です。2日目は、カブト虫見学。カブト虫を見ました。カブト虫はちょっとにがで、ちかぢかみまわりました。カブト虫のちかぢかに空中サイクリングがあって、それをちかぢこいっしょにしました。最初は、ちょっとこわくて、なみだが出てきそうになって、だんだん慣れてきてとてもたのしかったです。もう一度のりたいです。

事務局からです

- 第10回「電気ふるさとじまん市」開催**
今号に案内させて頂きました「電気ふるさとじまん市」が11月19日から3日間開催されます。深浦町の特産品コーナーもありますので、ぜひご参加下さい。
- 年会費納入のお願い**
平成11年度分の年会費をまだ振り込み頂いていない方は、郵便振込用紙にて1,000円をお振り込み下さい。用紙を無くされた方は事務局迄お知らせくだされば送ります。
- 「広報ふかうら」への投稿のお願い**
当会では、深浦町で毎月発行しております「広報ふかうら」へ、会員の皆様のご意見、ご感想等の投稿をさせて頂いております。投稿をご希望の方は、事務局迄ご郵送下さい。
・内容は特に問いません。
・活字数は800字～1,000字位
・あなたさまの写真を1枚添えてください。
- 「深浦会東京だより」への投稿のお願い**
年2回発行しております当会の会報への投稿を募集しております。
・内容は特に問いません。
・活字数は600字～800字位
- 住所変更された方へのお願い**
住所、姓名の変わった方は事務局までお知らせ下さい。
- 広告を募集しています**
当会会報に広告欄を設けましたので、ぜひご活用頂きたいと思つています。申し込みは事務局までお願いします。

青森県文化観光立県宣言記念イベント

輝くあおもり新時代 活彩あおもり大祭典'99

目的
県、市町村、観光関係団体、農林水産団体、環境関係団体、福祉関係団体、その他の各種団体等をはじめとして、県民一人ひとりが参加する、県民総参加型のイベントを実施し、「文化観光県」を県内外に強くアピールする。

5. 開催内容

- 文化観光ゾーン(青森県の多彩な観光資源の紹介)
三内丸山遺跡、世界遺産白神山、青森県の文化人(太宰治、棟方志功、寺山修司、大町桂月の紹介)
青森ねぶたの展示、囃子実演、跳人体験
弘前ねぶたの展示、囃子実演、八戸三社大祭、五所川原立倭武多
- 交流ゾーン(人と人のふれあい、文化と文化の交流)
各種の実演、体験コーナー
- 物産展と商談会ゾーン
- イベントと郷土料理ゾーン
特別ステージ、津軽三味線他のステージが多数
- その他

首都圏イベントの概要

- 時間 11月26日(金)～11月28日(日)の3日間
11月26日(金) 10:00～19:00
11月27日(土) 10:00～19:00
11月28日(日) 10:00～17:00
- 場所 東京ドーム 東京都文京区
- 主催 青森県文化観光立県宣言記念イベント実行委員会
- 入場料 無料